



「いつもわたしたちを温かく支えてくれた地域の皆さんのおかげで、晴れて成人の日を迎えることができました。雄大な自然と、人々の温もりのあるこの地で生まれ育ったことはわたしたちの誇りです。人への気づかいや思いやりを持ち、夢に向かって頑張っていこうと思います」と、力強く謝辞を述べた長嶋史織さん。その言葉には、地域社会の一員としての自覚があふれていた。いくつもの「思い」が詰まっていた平成21年成人式。これからの川根本町を背負って立つ105人の若者たち。それぞれが、それぞれの持つ目標や夢に向かってまっしぐらに進んでほしい。その夢の一つ一つが、やがて町の歩みにつながっていくはずだから。

成人おめでとうございます。



写真右上/式の前に記念撮影「ハイチーズ」 左上/受付ロビー。開式前にそくそくと新成人が集う 中段右/赤石太鼓演奏後、成人同士さわやかに声をかけ合う 中段中央/大きな笑い声に包まれた式典 中段左/「久しぶり！」なつかしい顔ぶれに笑顔がこぼれる 下段右/新成人も交えた赤石太鼓の熱演。迫力ある音色に会場も沸く

わたしが本川根中学校に勤めていた平成11年から17年の7年間のうち、平成13年・14年の2年間、今年成人した子たちを受け持ちました。

成長した教え子たちを見ると、あの頃のことが昨日のことのように思い出されます。体育祭や本中フェスタ（文化祭）、発表会など、子どもたちが頑張る姿が一番近くでずっと見てきました。でも一番思い出深いのは、実は普通の何でもない学校生活なんです。わたしたちの学校では、ことあるごとに生徒の写真撮って、校内の掲示板に飾っていました。どの子もわたしがカメラを向けると、本当にいい顔してくれるんです。変にかっこつけていないとか、ずれていないとか…。素直で純情、心の澄んだやさしい子ばかりでした。校内の畑で芋掘

りしたときのみんなの満足げな笑顔、今でも忘れられません。

子どもたちには毎日日記を書かせていました。その日の出来事や頑張ったことなど簡単につづったものです。一生懸命書いてくれる子が多く、学級だよりでその日記を紹介していました。「この子はこんなこと頑張っていたんだ」とか、「こんな考えもあるんだ」とか、わたしの方が教わることも多かったように思います。

総合的な学習が始まり、地域の皆さんと接する機会も多くなりました。講師になっていたり、行事に協力していただいたり、中には発表会を見に来てくれる方もいました。文字通り、地域の皆さんに支えられて、子どもたちは成長してきたんだと思います。今、20歳を迎えた教え子たちを見ると、あの頃と比

べー回りも二回りも大きくなっていて、とてもたのしく思えます。話をしてみると、素直でやさしい心はあのころのまま。それが一番うれしいんです。

中学の頃は地域の皆さんに支えられていた教え子たち。今度は自分たちが地域を支える側になっていきます。この地域で生きていく子も、外へ向かっていく子も、古里の大切さや感謝の心をずっと持ち続け成長して欲しいと思います。

わたしは教え子たちにことあるごとに言うて聞かせた言葉があります。それは「あなたが頑張っている姿が、周りの人を幸せにするんだよ」という言葉。晴れて成人の日を迎えたこの子たちが一生懸命頑張っている姿、それがこの町の人たちに元気を与え、幸せを運んでくれること心から願っています。

新成人たちの頑張っている姿が、地域を元気づけてくれることを願っています

川根高等学校教諭 石川由香さん

Ishikawa Yuka 千頭地区

平成11年から17年までの7年間、本川根中学校で教鞭をふるう。平成13年・14年に今年の新成人を受け持ち、厳しくも温かい目で生徒たちを見守り育てた。現在は川根高等学校教諭として3年目を迎える。専門は保健体育科。カヌー一部の顧問も務める。由香さん自身もスポーツをたしなみ、特にバレーボールでは地元クラブに所属、日々の練習で汗を流す。インタビュー中には、次から次へと思い出がよみがえり、瞳をうるませる一面も。



Message to everyone ~